JIFPRO newsletter

JICA課題別研修をオンラインで実施 - REDD+実施に向けた政策立案研修に6か国から参加-

JIFPROでは、途上国の政府内でREDD+*に関する政策立案・実施に携わる政府職員を対象に、REDD+実施に必要な政策・制度をそれぞれの国の実情を分析しながらその状況に合わせて企画・立案する能力を向上するための研修を5年前から実施しています。通常であれば、研修生に日本に来日してもらい、研修を受けながら高尾山や明治神宮などの日本の森を直に見てもらうのですが、コロナの影響のため残念ながら前年と同様に全面オンラインでの研修となりました。

*REDD+は、途上国における森林減少・劣化の抑制や持続可能な森林経営などによって温室効果ガス排出量を削減あるいは 吸収量を増大させる努力にインセンティブを与える気候変動対策です。(「森から世界を変えるREDD+プラットフォーム」より)

日本時間の午後4時から7時までの12日間のプログラムで、研修生は6カ国(カンボジア、バングラデシュ、インドネシア、ジャマイカ、コンゴ民主共和国、ソロモン諸島)から8名が参加しました。時差のためライブでの参加はかなわなかったジャマイカの研修生や、研修中に出張が入って講義に参加できなかった研修生などは、研修を録画したビデオを視聴することにより、修了証を手にすることができます。

研修生たちは「REDD+に関する国際的枠組み・最新動向」、「REDD+実施の要件」や「日本の森林と気候変動対策」等の講義を熱心に聞き、活発な質疑応答が行われました。日本の森を直に見てもらうことはでき



写真1 研修初日オリエンテーション終了後の集合写真

ませんでしたが、日本の持続可能な森林経営への取組を海外の研修生にも知ってもらいたいということで、北海道の上川郡下川町による「環境モデル自治体」の取組(循環型森林経営、バイオマスの利用、及びカーボン・オフセットの取組等)について、30分の研修動画を昨年度作成し、今年度も視聴するとともに、下川町の方からご講義



写真2 動画:下川町による「環境モデル自治体」の一場面

もいただきました。森林施業、木材産業、 非木質系林産物(葉から抽出するエッセン シャルオイル等)、バイオマス、吸収量の クレジット化等、多角的な取組を行ってい るこの動画は研修員に大変好評で、「地方 レベルのREDD+の取組みを考える上で示 唆に富んでいる」という意見が寄せられま した。研修員たちがこの講義で得た知識を 活かして自国のREDD+政策を推進し、森 林保全や気候変動緩和につながっていくこ とを期待しています。

ケニア半乾燥地での植林技術の開発・普及

JIFPROは令和4年度から新しく始まった「途上国森林づくり活動貢 献可視化事業(林野庁補助事業)」の一環で、コマツと協力して、ケニ アの半乾燥地での森林づくりとその貢献度可視化のための調査を行っ ています。

場所は、首都ナイロビの南東約200キロメートルのキブウェジとい う町の近郊です。ケニアの半乾燥地の中でも比較的乾燥の厳しいとこ ろで、大きなバオバブの木があちこちに生育しています。



植林地に養蜂と牧草が共存

JIFPROは、この町にあるケニア森林研究所の協力を得ながら、乾燥地での植林のために開発した「長根苗 (深さ40~60cmの細長いコンテナで育てた長い根を持つ苗)」を使った森づくり活動を開始しました。

JIFPROが、コンテナ長根苗の作り方を同支所の 職員に指導しながら、苗木づくりは順調に進んで います。

育成した長根苗は、周辺の農民に配り、未利用 の農地や荒廃地に植えられ、最終的には燃材や稀 少材として利用してもらう予定です。この「長根

苗 | 技術が、地 域の森づくりに 生かされ、農家 の人々の暮らし が豊かになるこ とを期待してい ます。



長根苗について農民に説明



育成した長根苗



コンテナの培土充てん作業



長根苗を無料配布



作業の仲間でお昼ごはん



ご支援へのお礼とお約束

令和4年度、これまでの約半年間のJIFPROへのご 寄付等の総額は約2,500万円となっています。これは 大口のご寄付が含まれているためですが、こうした大 口のご寄付とは別にSyncableを通じたご寄付やカタロ グギフトを通じたご寄付、更に銀行口座への直接のお 振込みなど、本当に多くの皆様からご支援をいただい ております。この場をお借りして、お礼を申し上げる とともにこれからもJIFPROは熱帯林を保全する活動 に積極的に取り組むことをお約束いたします。

